

【木牟礼】帰りは歩いて帰ったの？

【管】それが買い物が終わるまで待っていてくれて、帰りも送ってくれたんですね。入学間もない心細い頃だったのでとてもうれしかった。

【大田黒】その人と今でもお付き合いはあるの？

【管】それっきりです（笑）。でも、卒業するときには就職の報告には行こうと思います。最初に声をかけてくれた市民がそんな人だったから、「このまちの人はいい人ばかりなんだあ」と思って…まちのイメージを決める印象深い出来事でした。

「車があることを前提の“まちづくり”には、学生の視点がないのではないのでしょうか」

――最後に市について何か言いたいことがあったら、ご意見、ご提言など遠慮なくどうぞ。

【木牟礼】街灯が少なくて怖い。雀田駅周辺はとくに。

【大田黒】車を持っている学生はほんの一握りだから、せめてバスの便だけでも良くしてくれればと思います。学生割引のようなものがあればもっと利用すると思いますよ。（笑）

【管】大学の前にバス停があるけど、バスを待つより、自分で自転車で行ったほうが早いし。

【大田黒】バスに乗り遅れて、次のバスは1時間後となると、私は行くのあきらめます（笑）。

【西本】“車”を前提としたまちづくりがあるような気がします。それがつまり学生の視点でのまちづくりがあまりすすんでいない印象を受けるのかもかもしれません。人数が少ないとはいえ、卒業して全国にちらばっていき学生に「こんなまちだったよ」とPRしてもらおううえでは、学生の視点でのまちづくりは必要と思うのですが…。

【管】あとは、せっかく山陽小野田市に来たのに、まちのことを知る手段がないからもっと教えてほしい



液晶技術は山口東京理科大学から



▲ 超高速・超高精細フィールドシーケンシャルフルカラー液晶ディスプレイ

パソコン、携帯電話、テレビなど今や“液晶ディスプレイ”は、我々の身近にある家電製品に広く使用され、欠かすことができない存在です。みなさんは、これらの“液晶ディスプレイ”に山口東京理科大学で研究されている技術が使われているのをご存知でしたか？

山口東京理科大学に附設されている液晶研究所は、国内の大学で唯一、液晶ディスプレイの技術を開発する研究所です。研究所長の小林駿介しゅんすけ客員教授は、液晶研究の世界的権威で、これまで40もの特許を取得し、最新の液晶ディスプレイには小林先生の研究成果が見事なまでに生かされています。

これまで、液晶研究所は、文部科学省や経済産業省、多くの企業から多額の外部資金を得て、研究を進めています。現在、産学官が一体となって推進している、文部科学省「都市エリア産学官連携推進事業」では、宇部小野田・下関エリアの中核研究機関として、新技術の研究開発を目指し、新たな産業の創出にも取り組んでいます。

―昨年開発した液晶ディスプレイの試作品（上記写真）は、現在市販されている、どの液晶ディスプレイよりもクリアな画面で、応答速度が格段に速く、かつ省エネという三拍子揃った、次世代型の高精度な液晶ディスプレイです。

企業からの問い合わせも殺到し、現在、実用化に向けて動き始めています。